

# 弓道ながの

第 22 号

発行：長野県弓道連盟  
会長 山川茂樹  
〒396-0021  
伊那市大字伊那3919-3  
TEL0265(72)3060  
編集：県弓連広報部  
印刷：中央堂印刷社

## 美しい残心(残身)を目標に(その一)

長野県弓道連盟会長 山川 茂樹



「弓道ながの」に投稿を依頼されまして、講習会の資料をまとめてみました。巻頭を飾るにふさわしくありませんが弓道修練に少しでも参考になれば幸いです。

正しい射法は美しい残心を表現します。逆に正しさを欠いた射は乱れた残心を反映します。

正しい残心は体形厳然として、十字の規矩を保持し、天地左右に無限に伸張している姿で、乱れた残心は前後左右に崩れ、射の運行の乱れがそこに姿として残るものです。宇野先生は「射は流水のごとく、残心は開花に似たり」と教示しております。

残心は、最良の師範であるとともに最高の教訓を与えてくれます。それ故に残心は射の総決算であると言われる

います。私たち弓道を修練するものにとって残心の大切なことは十分理解していません。しかしなかには矢が的中すればそれで良いのではないかと思ひ、残心に関心を持たない人もあります。矢的中に中てるのが面白く、中らなければ面白くないと考える事も一理ありましようが、ここで矢が的にうまく中つたならばそれで良いのでしようか、決してその一射はそこで終わったのではないと思ひます。

例えば、



URL

長野県弓道連盟  
ホームページ  
<http://kyuren.cool.ne.jp>  
Email:kenkyuren@yahoo.co.jp

会社でも銀行でも、儲かればそれで良いとか、個人でも商品を売ってしまえばそれで良いとか、そこですべて終わったことにはならないと思ひます。必ず貸借対照表を作成したり、損益勘定をして決算をしなければなりません。残心とは正にその総決算に当たるのです。決算をしてみてもその期間内の営業成績が分かり、次の事業計画、予算に反映できるわけです。

弓を稽古する人は少なくとも弓によって何かを求めようと言う気持から出て発しているのではないでしようか、ある人は健康のため、ある人は精神修行のため、また趣味で弓を稽古している人もあります。その目的は違つていてもいづれにせよ現状に飽き足らず、弓によってその願望を求めていきたいと思つている人々です。最初の入口は何れのものを選ぼうとも中に入つて日々稽古を積んでいくに従つて、自ら自

分の進むべき方向や希望が次第に分かつてきて、その目標に向かつて精進を続けるようになってきます。目標がはつきりしてくれば色々の問題に直面してきます。そしてどのような方法で修練をすれば、その目標が叶えられるか色々の考えや工夫に迫られてきます。

そして上達した人の立派な射をみるにつけ、自分はどうして良い射が引けないのかと、自分の射の貧困さを味わうようになってきます。そこで自分の稽古にも身が入り努力が払われるようになります。殊に弓は頭で理解しただけでは十分にその成果を得ることができないのです。正しい形を繰り返し繰り返し反復稽古して筋骨に覚え込ませなくてはなりません、体に覚えこませることは大変な努力が必要です。良い指導者がそばにいてくれる境遇にある人は幸せです。なかなかそうした環境には恵まれません。稽古のやり方を研究したり、工夫稽古をするようになってきます。単に健康のためとか、趣味のために始めた弓が、次第に稽古を重ねていくうちに、もっと上手に引いてみたいとか、人並みに行射出来ないものかと、それ以上のものを求めるようになってきます。(以下次号へ続く)

## 全日本弓道連盟評議員会報告 評議員 土川 俊市

平成十九年度定時評議員会が五月二日京都市内のホテルで開催され、外園理事長と出席したので以下のとおり報告いたします。

全日本弓道連盟では三月には、通常評議員会が五月に定時評議員会が開催されることは前回申しあげました。

つまり三月の通常評議員会は新しい年度の事業計画、行事計画、分担金、収支予算の各案が提案審議されること为主题で、勿論その間に発生する懸案事項も検討、協議されて施行される訳ですが、総じて新しい年度に向けてのものと理解してください。

従って五月の定時評議員会は前年度の事業報告、決算等が主題となる訳です。

三月の通常評議員会では、決算見込みの報告がありますが、三月三十一日の年度を締め、決算書を作成され、公認会計士の監査及び全日弓連監事の監査を受けて提案できるまでに整えて、五月二日の定時評議員会に提出するには時間的に難しいとの説明もありまし

たが提案されました。

提案された平成十八年度の事業報告及び決算の各案は審議の結果、原案どおり承認されました。

事業報告の内容は全日弓連が主催された各種大会の結果及び講習会・研修会の実施状況また審査(中央・連合・地方)実績さらに機関誌の刊行状況等の報告がされました。

収支決算について、一般会計と五つの特別会計の決算が公認会計士の監査と全日弓連監事の監査を経て上程、執行部からの報告があり、全日弓連監事から監査の結果は、適正であった旨の報告がありました。

内容を審議の結果、原案どおり承認されました。

決算書は公益法人会計基準の改正により改正会計基準に従った財務諸表で作成提出されました。

決算の数字的な内容は省略いたします。

次に役員の補充についての議案が上程され、関東地域から推薦される全日弓連理事の辞任に伴う理事として群馬県弓道連盟会長の須田定雄(範士八段)先生が全会一致で承認されました。

特別委員会の組成についての議案の

上程は、公益法人制度改革対策と会員管理システム改善についての取り組みについては前号で報告いたしました。が、組成についての対応とその人選等を執行部に一任いたしました。

全日弓連創立六十周年事業ならびに第一回世界選手権大会については、実施の可否から特別委員会を組成し検討することを一任いたしました。

日本武道協議会、少年武道優良団体推薦については、各地区からの自薦・他薦があり五月中に決定することを執行部に一任いたしました。

報告・協議事項として全日本選手権大会(近的・遠的)については、前号でお知らせした内容での報告があり、決定いたしました。

国際弓道連盟に関する事で、創立記念大会および関連諸行事は会員各位の協力もあつて盛会裡に終了できた旨の報告と感謝の意が述べられました。

役員については、鴨川乃武幸会長の辞任が伝えられ残任期間中鈴木三成全日弓連会長が国際弓道連盟の会長代行に当たり補充人事の人選など全てを一任いたしました。

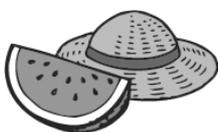
なお、鴨川乃武幸先生は名誉会長に就任されたく要請することの発議があ

り、全会一致で承認されました。

また同様辞任された関副会長先生の国際弓連の参与への就任要請も承認されました。国際弓道連盟賛助寄付金は四月末現在で、一二、三五四名がから四千二百八拾八万五千五百円の協力が得られた旨の報告がありました。

表彰規程に基づく各表彰の内容報告があり承認され、会議終了後の懇談会の席上で表彰式が行われ、長野県からは宮澤廣県弓連名誉会長と故古澤博会長が表彰されました。最後にその他の項で最近の全日弓連からの周知文章の資格条件に国際弓道連盟の会員であることとされているが、その意味していることは何かについての質疑があり、全日弓連の会員であれば国際弓道連盟の会員であるので、改めてその手続きの必要がないが誤解されないよう、言い回しを改めるとの回答で了承されました。

以上、今定時評議員会での協議内容の概要報告といたします。



連載

私の歩んだ道

大久保秀雄

ハイフォン出張所長となっていた私の任務は、ふ頭の倉庫にぎっしり詰め込まれていたコメ、砂糖、塩などの糧秣(りょうまつ)を守ることだった。またわずか一晩でフランス軍が降参の白旗を上げたので、結局私が銃を撃つような事態には至らなかつた。

戦地に赴き、最初から最後まで一発たりとも銃を撃つことなく済んだ私は他人をあやめることをしないで済み、本当に幸せだった。

交戦の翌日から再び仏印は平穏さを取り戻したが、日本ではその8月に原爆が落とされ、終戦を迎えた。

そして、私は終戦直後に少尉に任官したが、これは上官に弓の手ほどきをした故の計らいだったようにも思える。

最後の最後まで糧秣を引き揚げ船に積み込む作業に追われた後、最終の引き揚げ船に乗って、昭和21(1946)年4月20日にハイフォンを出帆。5月2日に名古屋港へ到着した。

この時、繰り返し流れていた「りんごの唄」は忘れられない。その新鮮なメロディーに、もう戦争は終わったのだという解放感と、無事復員できたうれしさが込み上げてきた。

しかし、「なんていい歌なんだろう」と聞き惚れていたのもつかの間、ノミ

シラミ退治のための大量のDDTをどつき浴びせかけられ、目の前が真っ白になった。

「アメリカかって国はどえらいことをするなあ。」この瞬間に自分が敗戦国日本に戻ったことを痛感したものだ。

昭和21(1946)年の5月3日、復員した私は3年ぶりに自宅に戻った。

それから、私は直ちに元の職場、新潟鉄道局長野工機部総務課の経理係に戻った。そして、弓道の練習も再開した。

その後、縁あって昭和23(1948)年5月に結婚したが、仕事の忙しかったことと弓の稽古でいつも帰宅は遅く、家のことは妻に任せきりだったので無責任な夫だったと思う。この点妻に申し訳なかつたと後悔している。

昭和26(1951)年4月15日、新しくできた長野工場の道場で行われた第1回近県弓道選手権大会は、われわれ弓道部員が主管となり運営に当たったが、これも良い思い出となった。

敗戦により武道を統括する組織だった武徳会は解散させられた。代わりに発足していた全日本弓道連盟が、その年の5月3日に京都の御所で第2回弓まつり全国大会を開催することを知った。

当時はなにせ、弓を引き離せば的に当たる自信があったので参加してみることにした。

どうせ上位入賞はできないだろうと決め込んでいたので、かなりリラックスしての参加となったのだが、これが素晴らしい結果を生んだ。

昭和26(1951)年5月3日に京都



国鉄弓道場で開催された第1回近県弓道選手権大会の参加者一同(2列目、右から5番目が筆者)

の御所で開催された第2回弓まつり全国大会での射は、まさに私の弓道人生の歴史に残る会心の出来栄であった。

全国から300人ほどが参加したこの大会の五段の部に出場した私は、一連の起居動作が円滑で射形が最も美しいという射技優秀の評価をいただき、参加者中で最高得点を獲得、特別六段に昇段できたのだ。

この昇段は本当に思いがけず、天にも昇るほどうれしかった。それもそのはずで、過去、このような形で特別に昇段した人は全国でも10人程度。県内ではこの

50年間ほどで私一人というほど珍しい昇段だったのだ。

一刻も早くだれかに伝えたくて、ふだん電報など打ったことがない私が、自宅へ電報を打ったことを覚えている。本当にうれしかった。

御所で開催された大会ということで、とにかくその環境の素晴らしさに圧倒された私は、その日入賞など考えることすらできなかったのだがこれが逆にとてもよかった。当てよう、入賞しようと考えれば勢い体中が固くなるが、「どつせ無理だ」という気持ちも手伝って力みが消え、失敗もなく淡々と射ることができたのだと思う。

もちろん、いつも淡々とできるかと言ったらそうではない。観衆の視線が一気に集中する弓道には、静寂の中にピンと張り詰めた独特の緊張感があり、何回大会に出場しても、時としてそのあまりの重圧に押しつぶされ、つるを引く手をはじめ体じゅうがブルブルと震えることがあるのだ。

それを必死にこらえながらつるを引き続けることがどれだけ大変かは想像がつくでしょう。こらえて、こらえて、こらえて引き続けるのだ。

すると満身に込めた力が最大点に達し、矢がおのずと離れていく瞬間がやって来て、的に矢が的中するのだ。

まあ実際にやってみるとなかなか難しいもので、達人の域に達した人でも思うようにならないのが常だ。しかし、それが弓道の奥の深さであり、魅力ではないだろうかと思う。

平成19年度北信越地区指導者講習会に参加して  
教士六段 水野 悦子

5月26日・27日北信越地区指導者講習会が長岡で開かれる。石川・福井・新潟・富山各5名、長野7名合計27名でした。

講師の先生は、尾形 虹範士・高橋 範範士・秋山照美範士。

第1日目 矢渡の後 一手行射 講評 尾形先生が「全体的にはつきりいうと、おもしろく無い射だと。もう少し心(ハート)が欲しい。表現が欲しい」と、基本に忠実という事で、全員執弓の姿勢から学び、介添の勉強。失の処理。3班に分かれ射技指導。

第2日目 矢渡の後 一つの射礼を2射場に分かれ行いました。午後立射の持ち的射礼を2射場に分かれて。その後相互学習で5つのを付けてグループ学習。

伝達事項として

基本に忠実

2次審査で引き終わり、定の座に戻らぬ時は、申し合わせで(一步なり)本座からさがり帰る。の2点でした。2日間内容の濃い講習でした。



第58回全日本男子弓道選手権大会  
第40回全日本女子弓道選手権大会

長野県予選会

5月13日 東御市菅弓道場に於て標記大会が開催されました。

天候に恵まれた絶好の弓道日和となり、和やかな内にも気合に満ちた選手が県下各地から男子35名 女子28名が集合して、いままさに県内一番の試合が始まろうとしています。

9時開会式に続いて矢渡が行われました。射手 土川俊市教士七段 第一介添 平井礼子教士六段 第二介添 倉根嘉四男錬士六段で行い息の合った

長野県予選会決勝 (H.19.5.13)

男子

番号	氏名	支部	1回戦	2回戦	的の中	2次得点	順位	
3	大口 晴男	飯山		x		3	298.5	3
5	押金 孝	上小	x			3	299.5	2
6	新津 一夫	長鉄			x	3	302.5	1
10	永藤 聡	須高	x		x	2	292.5	6
11	中田 真也	上伊那		x	x	1	289.5	9
16	古澤 金蔵	飯山	x	x		1	291.0	8
18	古川 忠司	飯伊			x	2	289.5	7
24	細田 尚	長野	x	x	x	0	289.0	10
33	大蔵 務	長野				3	295.5	4
38	土屋 隆	小諸		x		3	294.0	5

代表代表

代表代表

女子

番号	氏名	支部	1回戦	2回戦	的の中	2次得点	順位	
5	棚田 千鶴	長野	x		x	1	296.5	8
7	藤沢 敏子	飯伊		x	x	2	290.0	6
9	堀内 節子	長野		x	x	2	292.0	5
10	高地 美佐子	上小			x	3	285.5	3
18	林 宏子	諏訪				4	293.0	1
20	久保田 智恵	上伊那			x	3	294.0	2
25	小池 梨枝子	長野	x		x	2	288.5	7
26	関島 美奈子	飯伊	x		x	2	297.0	4
27	等々力 純子	長野	x	x	x	0	296.0	9
28	山口 久美子	諏訪	x	x	x	0	289.0	10

代表代表代表

代表

矢渡を拝見して、選手諸氏益々気合が入った様子でした。男子は、ベテランの方が欠場で少し残念な面もありました。女子は、若手の伸びが目覚しく目につき将来が楽しみです。どんどん伸びて県連女子部を盛り上げてくれる事を期待していますが、射だけでなく体配の方も忘れなきよう。

標記大会の反省点もありましたので

次回大会に向けて検討させていただきます。より良い大会運営になるように努力をして参りたいと思っております。さらに沢山の弓士の皆さまの参加をお願いします。

競技部長 大蔵 務

### 京都定期中央審査を終えて

教士六段 押金 孝

今年度の教士審査当日(5月5日)は、暑い一日でした。

近年自分は濟寧館第二道場での受審が多く、今年も濟寧館でした。

由緒ある京都御所で受審できる喜びと、身の引き締まる思いも昨年同様でした。かつて審査で妥協の弓を引き、幾度も後悔した経験からいつの頃からか、「ベストを尽くした」と帰路で、思えるようにしたいと思う様になりました。今年の京都審査も「ベストを尽くす」これだけを考えて受審しました。一次審査、指導力の査定、二次審査(一つの、論文課題と振り返ると「アツ」という間に過ぎ、帰宅時には「短くて長い」そんな一日でした。

平成元年に、上田市弓道教室を受講して以来歴代県連会長を初め多くの先生方や弓士の方々に御指導頂き、親しく交流を重ね、今日迄育てて頂いた事は、自分にとってかけがえのない財産です。「弓で教える」という名言がありますが、自分の場合「弓を教わり、弓で教わり、弓で自分の世界が広がった」

と思います。

また、弓道のできる丈夫な身体に生んでくれた両親にも感謝です。

論文の為、改めて教本や弓道関係の書籍を読み返して思う事が二つありました。一つは、大切な教えが沢山載っているのに、自分は勉強不足で勿体なかったと思つた事、二つめは、基本の大切さです。

範士八段故栗林實先生が講習会で、『弓道の極意は基本です』と挨拶されました。今後は、今一度基本に徹する事の大切さを認識し、更なる精進を積まなくてはと思います。

最後になりましたが、今後は、自分を育ててくれた地元弓道協会を初め、長野県弓道連盟に微力ながら恩返しができる様努めたいと思います。

了



### 弓仲間紹介

池田弓道会

大矢 誠

池田は縄文時代には人が住んでいたといわれ、弓道会のメンバーの先祖は熊や鹿を相手の狩りの名手だったかもしれない。

池田の地は養蚕や穀類の産地であったばかりでなく、糸魚川と松本を結んで山国へ海産物を運ぶ千国街道の宿場町として栄えたといわれる。



以下審査会などがある。

池田町体育協会には十九のクラブが所属し、弓道会はその活動が評価され、交付金も最上位にランクされている。定期練習は火・木・土の午後と夜の部があり、他に利用者が点検管理を怠らないことを条件に自由練習ができる。その他、昭和六十一年から大町と池田が合併して大北支部を構成し、支部の例会として毎月和服を着用した練習試合とテ-

また、大正期には大規模な製糸工場の煙突が林立し、町は賑わい、芸妓も多数いたというから、その頃優勝すれば、晩はさぞ賑やかだったことだろう。池田弓道会は、昭和三十八年有志が集って発起人ができ、同年十月発足する。そして翌三十九年、篤志家の寄付により初の道場の落成を迎えるが、その後、町の施設の整備計画にともない、移転

を余儀なくされ、昭和五十七年四月現在の位置に町立の施設として整備され、この時の道場開設記念大会が今年は四十四回を迎え、高校生、一般あわせて一六八名の方々が参加された。行事は春・秋県下弓道大会・三道大会・二段

マにそつた個別指導がある。高齢化はこの支部でも共通の課題のようだが、今年池田弓道教室に二十五名を越える申込みがあり、会員数三十名がどこまでのびるか皮算用に忙しいが、多数の応募にも興味がある。

# 「弓道長野」の

## 再建目指して

指導部長 土川 俊市

「弓道長野」の再建元年のスタートとして全日本選手権出場選手強化研修を実施しております。

全日本強化指定選手として県予選の第二次予選に進出した男女各十名を指定して強化研修をするものです。

講習会は講師がいて指導を受ける受け身の体制となりますが、強化研修として受け身でないお互いに切磋琢磨することの基本に立って研修するもので、優れた指導者や先輩のアドバイスを得て着実に前進することを狙いとするものです。

即効果を期待したいが、求める術もなく一歩一歩の積み重ねで参加者は勿論県下全般のレベルアップになればと思います。

皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。  
なお、建設的なご意見をお寄せください。

### 全日本選手権強化指定選手

男子

新津 一夫(長鉄) 押金 孝(上小)

- 大口 晴男(飯山) 大蔵 務(長野)
- 土屋 隆(小諸) 永藤 聡(須高)
- 古川 忠司(飯伊) 古澤 金藏(飯山)
- 中田 真也(上伊那) 細田 尚(長野)

女子

- 林 宏子(諏訪) 久保田智恵(上伊那)
- 高地美佐子(上小) 関島美奈子(飯伊)
- 堀内 節子(長野) 藤沢 敏子(飯伊)
- 小池梨枝子(長野) 棚田 千鶴(長野)
- 等々力純子(長野) 山口久美子(諏訪)

### 平成18年度 日弓連 功労者表彰受賞

5月2日日本弓道連盟評議員会の席上、功労者表彰が行われ、長野県から2名の先生が受賞されました。

- 宮澤 廣 範士 (旭日双光章・スポーツ功労)
- 故古澤 博 範士 (従六位旭日双光章・スポーツ功労)

### ◆北信越地区指導者講習会受講者◆

- 5月26日、27日/長岡市弓道場
- 教士七段 外園公毅 小林 克
- 教士六段 百瀬 正 水野悦子
- 山浦 博 奥山誠治
- 宮坂博之

### 私と弓道

#### 「三国志」にあこがれて

大岡中学校二年 遠藤 融成

私が弓道を始めたきっかけは、小学生の時に読んでいた『三国志』という本でした。私は、その本に登場した弓の名人にあこがれ、小学校四年生の時から、木や細い竹などで弓や矢を作り、飛ばして遊んでいました。



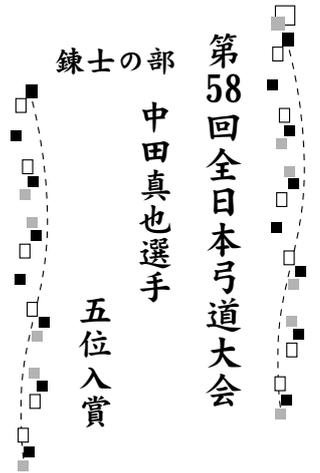
そして中学生になったある日、インターネットで弓道教室があることを知り、本物の弓道というものを体験してみたいと思い、長野市の初心者弓道教室に入りました。私のほかに30名程の受講生がいましたが、中学生は少なく、大人の人たちと一緒に、弓道の基本動作や体配、そして礼儀作法などを教わりました。初めのうちは、よくわからないことの方が多かったですが、それもだんだんと身についていきました。そして、なんととっても忘れられないのは、初めて矢を離れたときのことです。その一瞬で私は弓道が好きになりました。それ以来、私は弓道教室に通うことが楽しくなり、やる気が出てきました。

教室では回数が進むにつれ、的からだんだんと離れていきます。すると、矢が前に飛んだり下に落ちたりと、先生方の熱心な指導にもかかわらず、なかなかまっすぐに飛ばない日が続きました。しかし、先生方が私を根気よく指導して下さいましたおかげで、弓道教室も終わりが近づくと、28メートルの位置から弓を引けるようになり、時々ですが、的中も出るようになりました。先生方には本当に感謝の気持ちで一杯です。

今までは、初心者の弓道教室で指導して下さいました先生方以外にも、たくさん先生方や先輩の皆さんにお世話になっていきます。私は、これからも修練を続け、先生方の期待にこたえられる様な弓が引けるようになりたいと思っています。

### 第58回全日本弓道大会

部の  
錬士 中田真也選手  
五位入賞



全日本弓道連盟主催の第58回全日本弓道大会が5月3・4日、京都市の済寧館弓道場、武道センター弓道場で開かれた。

錬士の部では565名、中田選手は5位決定戦19名による遠近競射の末、蛇の目的中見事5位に入賞しました。



錬士六段 中田 真也

京都で弓の全国大会があることを初めて知ったのは、木曾で弓道を教えてくださった大蔵先生の話からでした。「五月の京都は弓を持った人でいっぱいになる」そう、すごい大会がある

ものだなと思っただけです。

「憧れの大会に出場できるようになって数年経ちます。昨年までは気持ち先走り、気がついたら終わってしましました。」

今回は新緑の風を感じ、ゆったりとした心持で演武を行いました。すると2本とも中ってしまいました。

八寸的になったところでのに囚われ、会場で弓が体におさまる前に離してしまい、大きく2時にはずしてしまいました。終わってしまったと思っていたところ、進行係の方の指示で「待つように」とのことでした。

8寸的中者が4人であったため19人で遠近競射をすることになりました。先ほどの反省をしながらしっかりと引くことだけに集中しました。矢は蛇の目の3時に吸い込まれていきました。観客席のざわめきが今も頭に残っています。

全員引き終わり射場で待つっていると帰ってきたのは私の矢でした。入賞できるとは思ってもいなかったのでもまだ実感がわきません。

このような成果が出せたのは、指導して下さった先生方と弓道の仲間のおかげだと思っております。

### 国際弓道連盟設立大会に

#### 参加して

諏訪支部 内山 喜照

国際弓道連盟の設立を記念しての祝射会が、四月十三日(金)十四日(土)の二日間にわたり、盛大に開催されました。私は十四日の一般祝射に参加させていただきましたので、その様子を簡単に紹介いたします。

各地方連盟から参加した弓士の数は千四百名を超え、前日の海外からの参加者と地連代表者を合わせれば二千名に達するほどの過去にない規模の大会になりました。弓士の顔ぶれも低段者から高段者まで幅広く、国内在住の外国人も交えて国際弓道大会の名にふさわしい光景となりました。一般祝射は長野県からも小岩井先生をはじめとする二十六名が参加いたしました。

会場となった日本武道館では一階フロアに十人立ち二射場の特設射場が設けられ、観戦者は二階三階のスタンド席からその全容を見渡すことができました。斜め上方から行射を見学する機会はあまりなく、大変新鮮でした。日本武道館の聖地とされ、普段は柔道や剣道の大会で使用されることの多いこ

の場所で大大会ができたことは貴重であり、大変良かったと思います。

さて、海外弓士の日常の稽古を考えますと、その練習環境や道具の準備には並々ならぬ苦勞があることがうかがい知れます。彼らがつたない言葉で弓道具店にて熱心に弓具を選ぶ姿を見て、私たちの環境がいかに恵まれていて、周囲に良き師や仲間がいることを再認識し、感謝の気持ちが湧いてきました。最後にこの壮大な催しを大きな混乱もなく運営していただいた大会役員の皆様に感謝いたします。今後このような機会を通して交流を深め、世界的な弓道の発展につながればよいと考えっております。



県高校総体

6月2日~6月3日長野運動公園弓道場で県高校総体が開催された。団体では下諏訪向陽高校女子がV3を達成した。

大会に出場) 6月16、17日に福井市で開く北信越県唐津市で開く全国大会に、3位まで(男女とも1位が8月4日~7日佐賀)

平) 長野西 大町

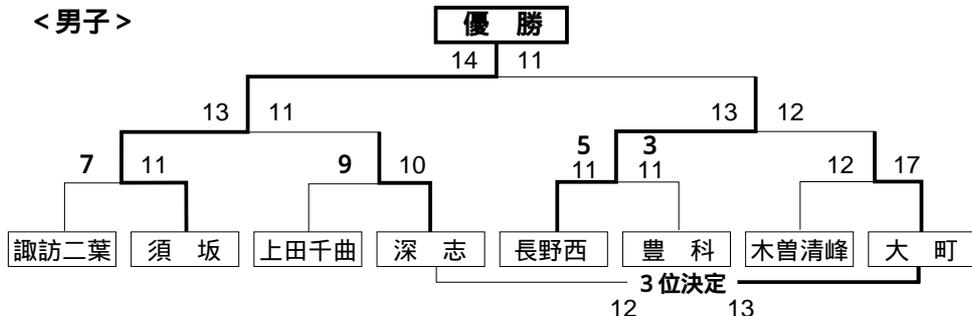
長野県高校総体決勝トーナメント

女子個人(12射) 佐藤遥菜 10中(長野日大) 五味紗代子10中(下諏訪向陽) 萩村美海(赤穂) 9中

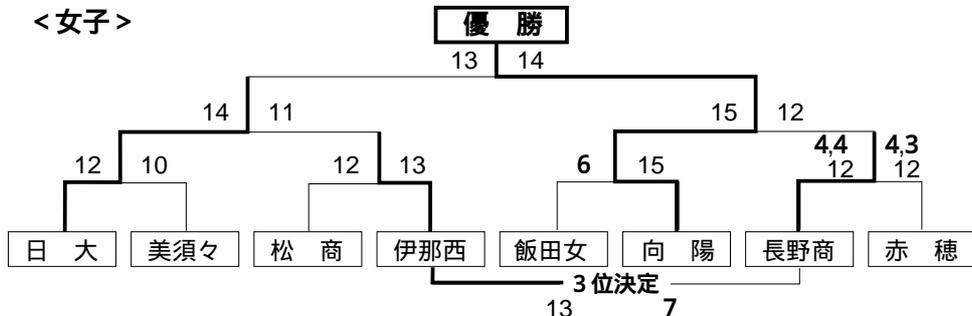
男子個人(12射) 山崎洋輔(長野西) 11中 茂木健志(丸子修学館) 11中 松井剛(大町) 10中 (男女とも1、2位が8月4日~7日佐賀県唐津市で開く全国大会に出場)

女子団体 下諏訪向陽(五味紗代子、末永輝美、有賀絵梨、早出千草、村松ひかる、米山美由紀、細井美季) 長野日大 伊那西 男子団体 須坂(中村直樹、藤井達郎、丸山航平、関直人、宮川優毅、山拓巳、勝山孝

<男子>



<女子>



勤労者弓道選手権大会兼全日本勤労者弓道選手権大会長野県予選会

4月15日、上田市城趾公園弓道場において長野県勤労者弓道選手権大会兼第54回全日本勤労者弓道選手権大会長野県予選会が、桜満開の中14チーム(42人)の精鋭選手が集い熱戦を繰り広げられました。

引分無しで勝敗の決着をつけるというところで、長野県信用組合対山二発條戦は、一本競射三回目で決着、見応えがありました。また、個人戦でも8射6中以上の選手が7名でやはり射詰競射を行い、5回目で優勝が決定という熱い戦でした。

遠くからきてくださった審判の先生方と運営に協力を頂きました地元支部会員の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

長野県代表となりましたチームの健闘を祈念しながら、次回この大会により多くのチームが参加される事を願っています。

競技部長 大蔵 務

団体リーグ戦

1位 南信教員(3勝0敗)

中田真也・塩澤忍・古川忠司

2位 長野県信用組合(2勝1敗)

井垣貴夫・吉田博行・佐々木和則

3位 山二発條 (1勝2敗)

志村仁・今井文明・長尾麗子

個人

1位 井垣貴夫(長野県信用組合)

2位 古川忠司(南信教員)

3位 小沢良宣(上田日本無線)

射技優秀賞

吉田博行(長野県信用組合)

佐藤嘉彦(中電長野)

志村 仁(山二発條)

審査合格者

特別臨時審査 3月26日 都城市

錬士の部 加藤 明美(長野)

三県連合審査 6月3日 飯山市

参段の部 福沢信子(飯山) 小林美代子(飯山)

五段の部 竹内 博(長野) 伊藤

梓(長野) 大場芳雄(小諸) 山田マ

サエ(松本)

臨時中央審査 6月10日 長野市

錬士の部 加藤さち子(塩尻) 木下

祿章(諏訪) 郷道隆志(中高) 中野

孝志(長野) 茂原智子(長野)

定期中央審査 5月5日 京都市

教士の部 押金 孝(上小)

長野県弓道近の選手権大会

6月17日、梅雨入りとは言えカラリと晴れ渡った爽やかな一日でした。

県下各地から総勢114名の大会申し込みがあり、大会も大いに盛り上がり射場からの気迫が伝わって来ました。中には、気力の空回りで実力の出せない若手選手も、大会には出来るだけ沢山参加して、大会慣れが必要かも。この大会は、自分の力を試す絶好の大会と思えますが……。

競技部長 大蔵 務

6月17日/塩尻市菅弓道場

参加者 102名

〔男子〕

参段以下の部

高橋 正弘(上小)

百瀬 友彦(塩尻)

森山 敏広(上小)

四・五段の部

牧内 和宏(飯伊)

吉田 博行(松本)

常盤 三男(飯伊)

称号受有者の部

小 池正夫(諏訪)

田中 正彦(松本)

相澤 勝浩(諏訪)

〔女子〕

四段以下の部

栗林 薫(松本)

宮島さおり(長野)

松下はるみ(長野)

五段以上の部

林 宏子(諏訪)

木村由紀子(飯伊)

春原由美子(上小)

射技優秀賞(男子四・五段)

常盤三男(飯伊)

射技優秀賞(女子四段以下)

栗林 薫(松本)

第37回北信越高校弓道大会

6月16日~17日、福井県立武道館弓道場において、北信越高等学校弓道大会が開催され、個人・団体、男女とも長野県勢の活躍が目立った。

男子個人

大久保雄貴(小松・石川) 須澤良光(大町・長野) 佐藤真徳(長岡・新潟)

女子個人

村松ひかる(下諏訪向陽・長野)

沢崎江里(鯖江・福井) 富永芽衣(伊那西・長野)

男子団体

大町(松井剛・逸見哲・倉科陽平・中村雄太・須澤良光・伊藤和晃・鳥羽毅) 新津工業(新潟) 須坂(中村直樹、藤井達郎、丸山航平、関直人、宮川優毅、山崎拓巳、勝山孝平) 長岡(新潟)

女子団体

伊那西(北原慶子、西村柚実里、平沢萌美、富永芽衣、増澤智美、池上ひとみ、青木千枝) 滑川(富山) 下諏訪向陽(五味紗代子、早出千草、有賀絵梨、細井美季、村松ひかる、米山美由紀、小口紗矢香) 長野日大(澤田茜、丸山今日子、金井はる香、岡杏子、村松史織、岡田美紀、佐藤遥菜)

各地大会

4月8日/駒ヶ根市弓道場

参加者 216名

団体 山二発條A(志村・今井・長尾) 岡谷南(宮沢・北沢・時田)

東伊那A(持田・前澤・湯沢)

個人(高校)男子 岩波哲也(諏訪二葉) 木下拓馬(飯田工業) 新井士人(伊那弥生) 女子 原久可(飯田)

女子) 小林彩香(岡谷東) 下沢栄(飯田女子)

(一般) 今井文明(山二発條) 渡辺純(信大農学部) 森田慶一(東伊那)

鈴木清重

4月29日/護国神社弓道場

参加者 一般115名 高校120名

〔近的〕 団体高校 志学館A(須山・小林・長澤) 池田工業A(太田・逸見・塚田) 蟻ヶ崎A(柴崎・伊藤・酒井)

団体一般 信大A(平松・杉山・伊藤)

公園B(本藤・降旗・中島)

個人高校 赤岩駿也(志学館) 小林大志(志学館) 徳高由樹(豊科)

個人一般 為田祐介(長野大) 百瀬友彦(塩尻) 高砂健司(諏訪)

〔遠的〕 個人高校 小林大志(志学館) 赤岩駿也(蟻ヶ崎) 塚原拓也(豊科)

個人一般 井垣貴夫(松本) 伊藤裕(信大) 柴種徳(伊那)

杉田 博

第16回駒ヶ根大会

第65回護国神社例大祭奉納大会

各地大会

第51回北信弓道大会

4月29日/飯山市弓道場

参加者 658名

高校男子 須坂B(中村・佐藤・勝山・関・宮川) 長野日大C(金井・山口・上松・平林・箕輪) 屋代A(徳武・平林・田中・森泉・堀口) 高校女子 長野吉田E(野口・樋山・西山・北村・小池) 長野商業C(清水・前島・原山・宮下・岸田) 須坂B(塚田・浅野・小林・峰村・返町)

中学個人男子 遠藤融成(大岡) 井出共栄(長野日大) 高沢啓太(長野日大)

中学個人女子 滝澤知世(長野日大) 清水真紀子(長野日大) 梅原萌花(長野日大) 一般個人男子 大口晴男(飯山) 原田正浩(中高) 麻田順道(中越) 一般個人女子 金井陽子(長野) 春原由美子(上田) 高木宏恵(諏訪)

石田 真

第43回小満祭弓道大会

5月20日/佐久市宮白田稲荷山弓道場

参加者 133名

団体高校 岩村田A(寺尾・青木・工藤・山崎) 野沢南A(平林・荻原・岩崎・井出) 岩村田C(斉藤・小林・井出・伊藤)

団体一般 長野大A(為田・伏見・小池・小林) 白田弓道会A(上原・亀岡・菊原・日向) 上小(荻原・飛知和・水澤・倉島)

個人 佐塚正洋(長野大) 水澤良宣(上小) 小林圭介(長野大) 射技優秀賞 斉藤秀和(岩村田高) 箕輪敏夫(佐久市)

日向 力

第24回無相大師奉賛大会

6月2日/中野市宮弓道場

参加者 60名

小林圭介(中野) 麻田順道(小千谷) 上村茂雄(六日町) 夏目澄江(中野) 宮島さおり(長野)

土屋義雄

第47回近県大会兼西沢盃争奪大会

6月9日/山ノ内弓道場

参加者 26名

山本雅晃(長野) 中島勤(長鉄) 服部理恵子(長野)

宮阪和久

第54回全信州大会

6月10日/山ノ内弓道場

参加者 一般22名 高校147名

一般個人 本藤幸恵(長野市) 今井誠一(群馬県榛名町) 南島健(松川町)

高校男子団体 須坂2年(町田・中山・藤井) 須坂3年(中村・関・宮川) 長野工業E(小林・渡辺・丸山) 高校女子団体 長野日大A(西沢・金井・成田) 飯山北B(山田・久保田・青木) 文大長野D(原山・牧野・山田)

宮阪和久

県弓連人事(長野県体育協会)

山川茂樹会長

長野県体育協会理事

に就任

6月5日長野県体育協会評議員会が開催され、山川会長が理事に承認されました。



内幕を明かすようですが、編集後記は部員が交代で書くことになっていきます。実際には後記だけではなく、切り日は他の原稿と一緒に。つまり担当者は編集とはかわりなく書くことになりません。したがって以下は雑感となることをお許しください。

今までの2回の部会でその都度、話題になったのは「弓道なごの」がどの程度、会員に行き渡り、読まれているかということでした。

わたしは県南のわずれの町に住んでいます。21号まで出ているというのに、正直な話、ほんの数字しか目を通していません。配布される機会にめぐり合わせていなかったからですが、わたしがその程度ということ、わが町の二十数名の会員はほとんど見ていないということになります。みなさんのところはいかがでしょうか。

現在の発行部数は500部。昨年より200部増えましたが、それでも全員の二割程度分にすぎません。広報誌の理想の姿にはほど遠い数字です。前進には課題が多すぎますが、なんとかしたい大きな課題です。(松澤)